

五感を超えて

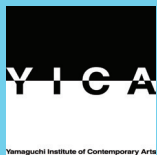
～ 建物の内部に散りばめられた物語の数々 ～

感性豊かな子どもたちの成長を支える空間づくり
…五感の体験をベースに…

の다가くえんようちえん 0・1・2 プロジェクト
【YICA(山口現代芸術研究所)NPJチーム】

アーティスト：原井輝明、中野良寿、鈴木啓二郎
プロジェクトメンバー 監修：嶋田日出夫
建築士：岡村和典

私たちは「Yamaguchi Institute of Contemporary Arts」の頭文字をとって「YICA」と表記し、通称イッカと呼んでいます。文化の薫る街で暮らしたい。そうした思いは、全国のおさまざまな地域に広がっているように思います。イッカは、1998年の設立以来、現代アートの活動を支援し、地域に浸透させることによって、そうした思いの一端を担ってきました。最近では、菜香亭での展覧会や、やまぐち街なか大学の講座「山口盆地考」、県内でのアート・ウォーキングや国内外のアーティストとの交流などさまざまな活動を通じて、アートを楽しみながら学び、表現の質を高め、交流の輪を広げています。



YICA 特定非営利活動法人 山口現代芸術研究所(YICA)
Yamaguchi Institute of Contemporary Arts

〒753-0057 山口県山口市前町2-11 (事務局)
TEL : 083-922-5700
<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~okutsu/YICA/Home.html>
Facebook : <https://www.facebook.com/yica1998/>



「たまじやりモザイク」

原井輝明

(画家、宇部フロンティア大学短期大学部准教授、FCA代表)

モザイクで描いた、虹、あるいはシャワーのような線としゃぼん玉の様な丸、シンク内の水が飛び散った様な形は、野田幼稚園園児のスケッチブックから使い、「ねこ」「こねこ」「りす」「こりす」「ひよこ」は新こども園のクラス名にちなみ、水場のデザインに盛り込みました。水場の躯体は、円弧を組み合わせ、硬直したものに出来ない形体を探りました。当初は、五感を超えてと云うテーマとして、手ざわりや足ざわりが感じられる玉砂利モザイクを計画していましたが、安全性・用途・作業工程を考慮した結果、玉砂利は輪郭線の一部の使用のみとなりました。古代から様々な場面で用いられている素朴な技法は、絵画の原点であり、存在感も強いのですが、単に装飾に留まらず、子ども達の視覚・触覚にも刺激し、豊かな感性が養われることを期待して制作した作品です。

「どうぶつと宇宙の音色」



の다가くえんようちえんの玄関の壁面に設置したインсталレーション作品です。影絵のようなどうぶつの形が壁に三つ描かれており、それぞれの動物は学年を意味する「こねこ」、「ひよこ」、「こりす」です。また、動物のシルエットの中にはオルゴールがあり、オルゴールの紐を引っ張ると個々違った音楽*が流れてきます。一見記号的でシンプルな視覚を重視した作品ですが、音が出る以外の特徴として、シルエットは2階調のグレーを使って描写されており、輪郭が揺れるような効果を狙っています。オルゴールの音と形が相まって、子どもたちのイメージレーションがこどもでも広がって行くことを願い制作しました。

*音楽:
こねこ:「リッツ・アスモールワールド (It's a Small World)」#160/シーマン兄弟作曲
ひよこ:「ガムパティ第一番 (Gympédie No.1)」/エリックサティ作曲
こりす:「虹の反対の方(Over the Rainbow)」/ハロルド・アーレン作曲

「エンドレス・パールボード」



エンドレス・パールボードは壁面に水色の色面(上)とピンクの色面(下)で塗り分けられた黒板です。この黒板は水色とピンクというカラフルなものが、普通の黒板のように文字や絵を描くことができます。また、一般的に黒板は一度書いたら消すものですが、これは原則として描かれたものを気にせず上からどんどん上書きすることをルールにしています。最初のスタートラインとして水色部分を山口大学の中野良寿と山口大学の学生(田中真理子、他一名)が担当して動物などをモチーフにしてチョークで描きました。主にピンクの部分は園の子どもたちに、描いて欲しいと考えています(この部分は粉が飛ばないように付属のクレヨンか鉛筆を使用)。優しい色合いの色面に飛び込むような気持ちで自由に線や面を使って絵を描いて、想像力の翼を羽ばたかせていただけたらと思っています。

中野良寿

(現代美術作家、山口大学教育学部美術教育教室教授、
N3 ART Lab 代表、山口現代芸術研究[YICA]副会長)



「みたりみられたり。。。」

みたりみられたり。。。は、建物内にガラス面や鏡面が多くあることに注目し、こちらとあちらという空間の存在から着想を得て制作しました。あちら側をのぞき込む、またはあちら側からこちら側を覗き込まれるという関係性を、抽象的な形のキャラクターで象徴的に試みた作品です。それぞれのキャラクターの形状や色は、「ひそんでいるかたち。。。」の延長線上にあります。キャラクターの目や口がくりぬかれているため、みたりみられたりという遊びを楽しむもあり、また覗き込んでいる時に向こう側から見た時には、キャラクターが顔を覆うマスクのような役割にもなり、みたりみられたりという遊びを楽しむことができます。また、鏡面にも設置しているので、覗き込んだ時に自分の顔や目がうつりキャラクターと自分が一体化するような不思議な体験も楽しむことができます。

鈴木啓二郎

(現代美術作家、cagerowproduction 代表、
the temporary space 代表)



「ひそんでいるかたち。。。」

ひそんでいるかたち。。。は、建物にひそんでいるなんらかのもの(まっくらくるすけのような存在)を想像したもので、子供たちと大人たちの間にいる抽象的な存在として制作しました。建物の中心にある回遊廊下をきっかけに発案しました。回遊廊下を一周回ることの一つの周期と考え、そこに連続性を付与させたいと思いました。オブジェの数は12個で1セットとなっており、形に関しては細胞分裂や水滴が2つに分れる様子を想像して制作し、色に関しては光や虹の色の移り変わりを象徴するように彩色しています。素材は軽く、磁石が取り付けられているので、磁力に反応する壁面や天井などに点をさせることができ、さまざまな使用方法の応用ができます。これらの特徴を生かして、独自の遊び方や使用方法を発見し、楽しんでいただくことを期待しています。上記以外にも抽象的な形や色の組み合わせで構成したオブジェも6つ制作しました。